

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

地域別計画

	作成年月日	平成30年6月27日	長崎県総合計画記載ページ	168	P
地域名	施策主管所属	県央振興局			
	課(室)長名	局長 嶋田 孝弘			

1 地域別計画の内容

<p>【取組の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開業に向けた県央の新しいまちづくり 2 県央の強みを活かした力強い産業づくり 3 県央の特性を活かした住みやすく、にぎわいあふれる地域づくり 		<p>【地域のめざす姿】</p> <p>新幹線開通でさらなる広域交通拠点として人やモノが行き交い、製造業、農業などの多様な産業が力強く発展し、豊かな自然や景観と調和したにぎわいあふれる地域</p>
--	--	--

2 地域別計画の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価	
■ A: 順調 □ B: やや遅れている □ C: 遅れている	
<p><<これまでの成果>></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 就農支援や生産基盤の整備に積極的に取り組んだことによって、平成29年度までに新規就農者107名を確保した。 ● 交通結節点としての機能強化を図るため、国道34号大村～諫早間4車線化や一般県道諫早外環状線などのインフラ整備が進捗している。 ● 「いさかん」魅力発見！プロジェクト等の実施を通じ、諫早湾干拓地や周辺地域において環境学習や競技用ボート練習利用など地域資源の利活用が促進されている。 <p><<進捗状況に課題がみられる分野>></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長崎空港の24時間化については、国内・海外航空会社への路線開設誘致、貨物関係者との協議を実施したが、夜間運航の航空会社の誘致や貨物輸送需要の掘り起こしまでには至っていない。 	

3 地域別計画の数値目標の進捗状況

指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析
製造業従業員一人あたり付加価値額	目標値①	/	—	—	—	—	1,305万円	1,305万円 (H32)	県央地域の製造業従業員一人あたり付加価値額は、基準年(H24)以降低下した時期もあったが、平成27年から上昇に転じ、最新値である平成28年は最終目標値を大きく上回る結果となった。(平成29年実績は平成31年度に公表予定)
	実績値②	1,243万円 (H24年)	1,848万円	算定中				進捗状況	
	②/①	/	-	-				-	
観光客延べ数	目標値①	/	534.7万人	550.0万人	565.3万人	580.5万人	595.8万人	595.8万人 (H32)	観光客延べ数は平成28年4月に発生した熊本地震の影響はあったものの順調に推移している。平成29年度は一部を除き地域全体で前年を上回っており、特に大村市は観光施設の利用者やイベント客数が堅調に推移し日帰り客が過去最高を更新しており観光客延べ数は前年比15.8万人増(+12.0%)となっている。また、波佐見町においては陶器まつりへの参加者が過去最高となるなど観光施設等への客足も伸びており、日帰り客数、宿泊数とも過去最高を更新し観光客延べ数は前年比13.9万人増(+14.3%)と大きく増加している。今後も引き続き地域資源を活用した賑わいの創出と情報発信に努め、さらなる観光振興に取り組んでいく。
	実績値②	541.7万人 (H26)	537.4万人	561.0万人				進捗状況	
	②/①	/	101%	102%				順調	
新規自営就農者数	目標値①	/	48人/年 48人 (H28)	48人/年 96人 (H28-H29)	48人/年 144人 (H28-H30)	48人/年 192人 (H28-H31)	48人/年 240人 (H28-H32)	48人/年 240人 (H28~H32累計)	市町・農協、農業高校、農業大学校及び新規就農相談センターと連携し、就農支援制度紹介等で就農意欲を喚起したほか、円滑な就農に向けて農業次世代人材投資資金の活用支援等、就農希望者へ技術習得支援や情報提供等を行った。また受入団体登録制度に見られるように、地域の農業者が就農者を増やしていることとする意識の高まりも新規自営就農者数の増加につながっていると考えられる。引き続き、就農希望者への各種支援や情報提供により新たな担い手の確保に注力していく。
	実績値②	25人 (H22-H26平均)	50人	57人/年 107人				進捗状況	
	②/①	/	104%	111% (累計)				順調	

4 新たな課題や社会情勢の変化等

- 次代を担う若者の県外流失や少子化による人口減少は地域社会においてより大きな問題になっている。
- V・ファーレン長崎のホームスタジアムが長崎に移転する可能性がでてきている。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

- 若者の県内定着を促進するため管内の高校や経済団体をメンバーとした「県央地域若者定着促進連携会議」を組織し、県内企業説明会等、高卒者の県内就職率を高めるための取組を実施していく。
- V・ファーレン長崎のホームスタジアムが長崎へ移転することとなった場合、諫早市が掲げているスポーツを通じた地域活性化への影響が懸念されるが、引き続きV・ファーレン長崎のコアのホームタウンとしての賑わいを創出するとともに、県立総合運動公園をはじめ新市営野球場等地域に整備されたスポーツ施設の活用促進や、諫早湾干拓地周辺の環境を活かした競技用ポートや駅伝などの合宿誘致、民間主体で計画が進んでいるフルマラソン等のスポーツイベントの開催支援、大村湾ZEKKEIライド（自転車ライドイベント）の開催など、地域資源を活用したスポーツによる地域活性化の推進を図っていく。

6 地域づくりの方向性を推進する主な取組の状況

番号	地域づくりの方向性	主な取組の状況	主な取組事業等（本庁所管課）
1	九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の開業に向けた県央の新しいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●国道34号大村～諫早間の4車線化の事業化促進 ・長崎・諫早・大村・佐世保を結び県央地域の地域振興施策に欠かせない重要路線である一般国道34号について、大村～諫早間の4車線化が決定し平成30年度から事業化されたことにより、交通結節機能の強化に向けて今後整備を促進していく。 ●諫早駅へのアクセス向上のための整備促進 ・県央地域と島原半島地域の連携強化を担う地域高規格道路「島原道路」の一部である一般県道諫早外環状線については平成20年度の着工から着実に整備を進めているところである。また、国道207号永昌交差点の整備は平成30年度完成予定であり、諫早駅への交通アクセスの向上が見込まれている。 ●新大村駅（仮称）周辺整備の進捗とアクセス向上のための整備促進 ・九州新幹線西九州ルートの開業に向けた新大村駅（仮称）周辺については、土地区画整理事業など空港やインターチェンジに近接する立地を活かした周辺整備事業が進捗しているところであり、また、新大村駅（仮称）へのアクセスを向上する都市計画道路「池田沖田線」は平成33年度末の完成を目指して整備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道34号大村～諫早間の4車線化の事業化促進（道路建設課） ・島原道路整備推進（道路建設課） ・国道207号永昌交差点の整備推進（道路維持課） ・都市計画道路池田沖田線の整備推進（道路建設課）
2	県央の強みを活かした力強い産業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな工業団地の整備と企業誘致活動の推進 ・製造業等の企業誘致の受け皿として、大村市新工業団地（12.4ha／平成31年4月分譲開始予定）及び諫早市新産業団地（第1期10.8ha／平成32年2月分譲開始予定、第2期9.3ha／平成33年12月分譲開始予定）の整備が進められている。 また、平成28年度から平成29年度にかけて、企業誘致により製造業2社が立地し、併せて72人の雇用を創出した。 ●農業における生産基盤の強化と担い手確保のための就農支援 ・諫早市有喜南地区において、平成26年度から約66haの畑地基盤整備（事業費約26億円）が進捗中であり平成31年度完了予定となっている。また、同地区において西日本最大級のぼれいしょ選果施設（処理能力170t/日、事業費約18億円）が平成29年度に整備されたほか、平成28年度から平成29年度にかけて県央地域内で約10haの施設園芸ハウス（野菜約8ha、花き約2ha）の整備及び作物の生産性・品質向上のため炭酸ガス発生装置や電照用LED電球等生産資材や機器の導入（平成28年度5件、平成29年度20件）など農業生産基盤強化による生産性向上と経営力を強化し担い手の確保に取り組んでいる。そのほか、地域の生産組織が新規就農希望者への技術・経営面の支援や農地及び住居探しの支援を行う受入団体等登録制度により、農業者自らが担い手の確保・育成に取り組む動きも出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町営工業団地整備支援事業（企業振興課） ・農地整備事業（耕作放棄地型）（農村整備課） ・産地パワーアップ事業（農産園芸課） ・受入団体等登録制度（農業経営課）
3	県央の特性を活かした住みやすく、にぎわいあふれる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●諫早湾干拓事業で造成された干陸地等の地域資源の利活用促進 ・諫早湾干拓事業で造成された広大な干陸地等の地域資源の利活用の促進のため、「いさかん」魅力発見！プロジェクトにおいて諫干まつりや見学会、スケッチコンクール等を実施し、地域住民が身近に頼り手機会を創出した。また、本明川下流域については、ポート競技に適した環境であることから練習場としての環境整備を支援し、県スポーツ協会や高校スポーツ部、県外団体等が練習に活用するほかU19選考会の開催やカヌー体験など活用の幅が広がっている。 ●地域密着型チームを活用したスポーツツーリズムの推進 ・V・ファーレン長崎のホームゲームにおける集客対策として、県民応援デーの実施や情報発信、ホームゲーム時の交通アクセス対策検討等の支援を行い、J1リーグへの昇格がかかる試合では入場者が過去最多となるなどにぎわいの創出や観光振興にも寄与している。また、J1への昇格等によりV・ファーレン長崎を応援する機運が高まっており、サッカー等による交流人口が拡大するとともに、平成30年に完成した諫早市の野球場や、整備が進められている大村市の総合運動公園などスポーツの拠点となる施設の整備も進捗しスポーツツーリズムの推進が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いさかん」魅力発見！プロジェクト（地域づくり推進課） ・「スポーツ・夢づくり」推進事業（スポーツ振興課） ・スポーツミッション事業（スポーツ振興課）